

「三番瀬の干潟から縄文時代の食生活、昭和期の海辺の暮らしを体験する」

【支援金確定額：291,412円 支援率：50%】

記入日：平成26年3月28日

■どのような活動をしている団体ですか？

1. 三番瀬の干潟環境フィールドで四季変化する動物・植物の観察会を計画、実施しています。
2. 自然・歴史・郷土資料博物館の学芸員及び在野の専門家のレクチャーを受け活動しています。
3. 里海・里山の繋がりを観察会やシンポジウムに参加し、学ぶ活動をしています。
4. 大人・子どもで自然に親しみ、自然から学び暮らしに活かす活動をしています。



生きもの観察会

■事業提案型支援金をどのように活用されましたか？

25年度は三番瀬での観察会が四季を通して出来るようになりましたので、動物、植物の観察会が実施できました。

また、日本一貝塚の多い千葉県の縄文時代の食生活のまねっこを、三番瀬で採取した貝や小魚を、火起こし体験と縄文土器（レプリカ）で煮炊きをして、食す体験をしました。

また、昭和期の人々の海辺の暮らし方を浦安市郷土資料館の協力を得て、道具や写真資料を借用し、直に触れ学びました。地引き網の体験も実施しました。

*猛暑の中での夏休み体験活動となりました。



縄文時代の暮らしのまねっこ

■2年目となる事業提案型支援金を活用して事業を実施することで、どのような成果がありましたか？

観察会参加者も体験を重ねるごとに、学びも深くなり、生きものを見つける、触れることがうまくなり、親子で楽しむ家族が増えて来ました。24年度に学んだ「鳥の帽子」も活躍し干潟で、渡り鳥になった気持ちを子どもたちは楽しんでいました。

縄文土器で煮炊きした貝汁を「5杯お代わりしたよ！」と大人気でした。貝は、午前中、自分たちで採ってきたものです。まさに、縄文人のまねっこが出来ました。猛暑の中火起こし体験もしました。

■今後の活動の抱負について

三番瀬の干潟の四季を通しての観察会の継続（毎年環境は変化しています）実施と、観察後のまとめの交流会を計画します。自然観察会のニュースの発行を検討します。

26年度は、「海苔すき体験」を計画して、海と人々の暮らしの工夫体験活動を計画したいと思います。（浦安市郷土資料館の活動に参加することから学ぶ）

■問い合わせ先：共同代表 佐藤 聡子（さとう ふさこ）、田澤 浩一（たざわ こういち）

TEL：090-1769-9494 E-mail:hosikuzu@eos.ocn.ne.jp